

3 静岡県版カテゴリー区分

基本的には、環境省のカテゴリー（2017年）の定性的要件を準用し、本県独自のカテゴリーとして「要注目種」を採択しました（カテゴリーの詳細は、別紙1参照）。

- ・ 絶滅（EX）：本県では既に絶滅したと考えられる種
- ・ 野生絶滅（EW）：飼育・栽培下でのみ存続している種
- ・ 絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種
 - ⅠA類（CR）：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 - ⅠB類（EN）：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・ 絶滅危惧Ⅱ類（VU）：絶滅の危機が増大している種
- ・ 準絶滅危惧（NT）：存続基盤が脆弱な種
- ・ 地域個体群（LP）：地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの
- ・ 情報不足（DD）：評価するだけの情報が不足している種
- ・ 要注目種：本県独自のカテゴリー
 - 現状不明（N-Ⅰ）：現状が不明な種
 - 分布上注目種等（N-Ⅱ）：絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種
 - 部会注目種（N-Ⅲ）：その他各部会で注目すべきと判断した種

(別紙1)

静岡県版カテゴリー

区分及び基本概念	具体的要件 (定性的要件)	
<p>絶滅 Extinct (EX) 本県では既に絶滅したと考えられる種 (注)</p>	<p>過去に本県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、本県では既に絶滅したと考えられる種</p>	
<p>野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種</p>	<p>過去に本県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、本県においては野生では既に絶滅したと考えられる種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 信頼できる調査や記録により、既に野生で絶滅したことが確認されている。 ② 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>③ 過去50年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">絶滅危惧 T H R E A T E N E D</p>	<p>絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ② 既知のすべての生息・生育地で生息・生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>⑤ それほど遠くない過去(30~50年)の生息・生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。</p>
	<p>絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ② 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</p>
<p>絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p>		<p>絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN) I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。</p>

区分及び基本概念	具体的要件（定性的要件）
<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT)</p> <p>存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息・生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後更に進行するおそれがあるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> a 個体数が減少している。 b 生息・生育条件が悪化している。 c 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d 交雑可能な別種が侵入している。
<p>情報不足 Data Deficient (DD)</p> <p>評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <ul style="list-style-type: none"> a どの生息・生育地においても生息・生育密度が低く希少である。 b 生息・生育地が局限されている。 c 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 e その他ランクを判定するに足る情報が得られていない種。
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP)</p> <p>地域的に孤立している個体群で、絶滅のおれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生息・生育状況、学術的値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息・生育域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ② 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。
<p>要注目種 Noteworthy (N)</p>	
<p>N-I 現状不明</p> <p>現状が不明な種</p>	<p>過去の記録はあるが、その後 30 年未満の間情報の得られていない種（配偶種は除く。）。</p>
<p>N-II 分布上注目種等</p> <p>絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種</p>	<p>分布が局限されている種、その他、静岡県で遺伝的、形態的に特異な種。</p>
<p>N-III 部会注目種</p> <p>その他各部会で注目すべきと判断した種</p>	<p>各専門部会において、学術上・自然保護上注目すべきと判断された種。</p>

注：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。